

市民活動応援補助金報告会・情報交換会アンケート 回答一覧

Q 1 【必須】報告会及び評価について（報告会の開催方法の感想、評価方法の改善点など）

- ・ 報告会の開催自体は成功だったと考える。6 ブースでの同時進行も、報告する団体と聴衆が同じ目線のため質問がしやすかったと考えられる。ただ、時間配分については、検討の余地がある。質疑の時間を増やしてもいいのではないか。

- ・ 報告会は意義のあるものだと感じた。発表時間が 6 分というのは、少し短い感じがした。第 3 部の情報交換会を多少短縮して、発表時間に回してもよかったのではないか。
- ・ 同時に複数の発表であったができれば全部聞きたかった。
- ・ 市民にこの取り組みについて広く広報する必要があると思う。

- ・ 会場設営がよかった。演者や質疑の声が、他のブースにほとんど影響なかった。距離が近いので、親近感のある雰囲気があってよかった。
- ・ 質疑の時間が短かったので質疑が深まらなかった。もう少し長くできるとよいと思う。（10 分くらい）
- ・ 収支報告や成果物についてなど確認したいことがあったが、聞く時間がなかった。

- ・ 発表時間が少なく、十分説明できない事例もあり、時間を延長するか、団体を絞り込むのか検討が必要と思われる。
- ・ 参加者からの質問が多く、時間を考えると委員として質問していいのかためらわれ、終了後立ち話で話を聞いたが、やはり時間が少なすぎた。
- ・ 報告会のねらいを再検討する必要があると感じた

- ・ ブース形式の発表というのは、初めて見せていただき、とても新鮮な印象を受けました。ただ同時進行になるので、時間短縮というメリットは大きいですが、見学者は聞いてみたい事業が制限されるというデメリットがあります。また声のトーンにもよりますが、周囲の雑音が気になり少し聞き取りにくい場面もありました。
- ・ 始まる前に団体の方から、誰も聞きに来てくれなかったらどうしようと心配される声を耳にしました。気軽に報告できるという利点も考えられますが、団体側としては、もう少し聞き手が多い方が、モチベーションが上がるような気もしました。
- ・ 6 分間の口頭発表では時間に追われる感があり、内容を十分伝えきれない様子が伺えました。サポセン祭りで作成したパネルを展示するなど、視覚に訴えるような手段もあると良かったです。報告が聞けなかった事業についてもある程度の内容は伝わるのでと思います。
- ・ 昨年度は全団体の報告ではなく、3 団体のみで評価もありませんでしたが、今後全事業に対して評価を行う意向であれば、今回のような簡単なコメント形式が妥当ではないかと思われま

- ・ 評価する事業は一人4事業に限られましたが、個人的には、全団体の発表を聞いてみたいと思いました。

- ・ 協働事業として正しい過程でなされているか→特に問題なし
- ・ 広い意味の協働を進める上での原則に則って実施されているか
→本事業の主旨及び選考の視点等についてきちんと踏まえ、各団体が協働を進める上での原則に則って誠実に取り組もうとしている様子が伺われた。
- ・ 実施した人たちが満足感を得て事業を展開できたか
→各発表者が自信と誇りを持って取り組んでいる様子が伺われた。ステップアップコースの応援補助金交付が終了した以降の活動に不安感を抱く団体が発表会の中であった点、何らかの対応が必要か。
- ・ 報告会の開催方法及び評価方法の改善について
→初めての試みとしてブース型の発表形式は、参加者のニーズに即した対応が可能となり、有効であった。
発表時間・質疑含めて10分は、概要の理解にとどまり、深まりがなく短いように感じた。今回の発表団体とブース数6との関係からやむを得ない状況と考える。
委員が受け持つ評価コメントについては、観点・項目の評価基準がもう少し具体的に明記されていると短時間で評価しやすかったと思う。

- ・ 初めての試みとしてはスムーズにできたのではないかと思います。報告会の第二部の時間を長くとり、第三部を短くすることを提案します。
- ・ 各ブースに分かれて少人数を相手に報告したためか質疑応答が活発に行われた反面、時間が足りなかったように感じました。質疑応答時間を長く確保できるようになるといいと思います。
- ・ また、各ブースの後ろにはパーテーション・ブース案内兼大型掲示物を張り出す為のホワイトボードがあった方が良くと思います。ポスターをお持ちになっていた団体もあったので、張り出すかどうかは各団体の自由にするにしても掲示できる状態にはした方がよいのではないのでしょうか。
- ・ 開催日は土曜・日曜のほうが仕事・子供を持つ方にとっては集まりやすいかもしれません。
- ・ 評価にあたっては、事前に報告資料に目を通せると助かります。

- ・ 今回、初めての報告会でしたが、発表時間の短さが気になりました。
改善策としては第3部の情報交換会の時間を短縮して、補助金報告会の時間を長くする等が考えられます。

- ・ 報告が補助金を受けた平成23年度の事業というよりは、会全体の報告になりがちで、「この事業で補助金をもらった」という、はっきりしたものが感じにくかった。
- ・ レイアウトの工夫で、声が重なりにくく、報告が良く聞けた。

- 平成24年度交付団体の一覧と平成25年度の予告もすると良かった。
- 活動期間の長い団体や、比較的大きな団体でも、補助金の存在が貴重であることが感じられた。

Q2 【任意】その他（Q1以外の市民活動応援補助金報告会・情報交換会について）

- ・ 情報交換会はすぐに帰ってしまう方も散見された。18時開始で21時終了という長時間のプログラムは、夜間であることから見直す必要があるかもしれない。

- ・ 県が行っている表彰制度（ボランティア活動奨励賞）なども参考にしていってはどうか。
- ・ 発表の中で質問できなかったことについて情報交換会でじっくり話が聞けたのでよかったと思う。

- ・ 資料の綴じ方。計画書と報告書、予算書と収支決算が対で見られるようにしていただくと、わかりやすかったのではないかと思います。

- ・ 情報交換会の委員の位置づけが不明で、どのように対応していいかわからなかった。自由参加でなく出席を義務付け、担当グループを指定したらどうか。

- ・ 全事業の評価を行う報告会となると、一団体ずつのプレゼン形式の発表は時間的に難しい。報告会をメインと考えるならば、例えば第一部は資料の配布のみとし、簡単な説明で終わらせるとか、第3部についても時間を短縮するなどして、時間配分を工夫する必要があるかと思われます。

- ・ 事務的なことですが、各グループの発表順のページに各団体の資料のページ数を明記した方が見やすいです。
- ・ 情報交換会は、開始直後は事務局側で参加団体の紹介などを行った方が良いと思いました。（割り振られたグループの中うまく仕切れる方がいるとは限らないので）各団体が持参した配布物は一括して全ての参加者の手に行き渡るようになるとよいかな、とも感じます。

- ・ 3部の交流会の時間を短くして、真ん中（2部）に入れると帰る人も減るし、後の報告をもっと聞きたくなると参加者から意見があった。
- ・ 音楽関係の方のアトラクション等があると誘いやすい。
 - ・ このような会合に出てくる人は割りと固定化しているの、そうでない人にいかに来てもらえるか、メリットは何かを打ち出して行きたい。